

千波湖のプランクトンを調べました

～第1回千波湖環境学習会～

水戸市との協働事業の千波湖環境学習会は、毎年多くの市民の方にご参加をいただいています。今年で9年目の学習会初回は5月28日（日）に五月晴れの下、「千波湖のプランクトンを調べよう」をテーマに千波湖畔の親水デッキを会場として子どもたちの元気な声とともに始まりました。参加者は保護者を含め103名でした。

水戸市のマスコット「みとちゃん」と(株)FC水戸ホーリーホックのマスコット「ホーリー君」が意欲溢れる子どもたちの応援に来てくれました。



みとちゃん・ホーリー君と記念撮影

子どもたちを2班に分け、1班はスワンボ

ートに乗って千波湖の水を採取、もう一つの班は講師からプランクトンの説明を聞き、プランクトンネットを使い親水デッキから採取しました。それを顕微鏡で観察してみると、



プランクトンを顕微鏡で観察

アオコの原因となる藍藻類(ミクロキスティス、アナベナ)や動物プランクトン(ミジンコ)などを確認することができました。次に班を入れ替えてボートでの採水及びプランクトンを観察しました。その後、2班が合流し講師からCOD(化学的酸素要求量)とパックテストの検査方法の説明を受け、数値を測った結果、COD値は4~8mg/Lでした。

今回、学習会に参加していただいた方々には、千波湖のプランクトン及び水質環境に関心を持

っていただけたのではないかと思います。

最後に、顕微鏡を貸していただいた茨城県霞ヶ浦環境科学センター様と学習会に華を添えていただいた「みとちゃん」と「ホーリー君」に感謝申し上げます。



パックテストを体験

千波湖周辺に生息するホタルを観察しました

～第2回千波湖環境学習会～

第2回目となる千波湖環境学習会は、「千波湖周辺に生息するホタルを観察しよう」をテーマに6月9日（金）に開催しました。今年で3回目を迎えるホタル観察では昨年に引き続き定員を超える事前申込みがあり、ホタルを見たい子どもたちがたくさんいることが伺えました。

受付では、第1回開催に引き続き「ホーリー君」が出迎えてくれ、開始時間まで子どもたちと戯れていました。

開始時間の19時、まだ日も残り明るく心地よい涼しさがあり、ホタルが出る気配を醸し出していました。暗くなるまでの時間を利用し「ホタルに関するクイズ」や「低炭素杯2017」で環境大臣賞金賞及びオーディエンス賞をダブル受賞した学校法人緑丘学園水戸英宏小学校・中学校の生徒たちに「ホタルネッ



ホーリー君が子どもたちをお出迎え



クイズに答える子どもたち

最後に、参加者の皆様に飲料をご提供してくださいました水戸ヤクルト販売(株)様及び逆川こどもエコクラブ様にお礼申し上げます。

トワーク mito 英宏 eco スクールプロジェクト」と題した発表をしていただきました。参加者は、クイズでホタルについて学び、また、発表ではホタルを再生するまでの過程を学びました。

19時半頃に周辺の水路に移動し、待ちに待ったホタルの観察会です。夜の闇に紛れたホタルが、光を放ち舞う姿は幻想的で子どもだけではなく、大人からも歓声が上がっていました。



いざホタル観察へ